



# Information\_9



## 糖尿病のおはなし

前は甲状腺ホルモンというホルモンのお話でしたね。  
今回も引き続き内分泌系の病気、糖尿病についてのお話です。

### 糖尿病とは？

血液中の糖の濃度(=血糖値)は、「インスリン」という、すい臓から分泌されるホルモンがコントロールしています。インスリンは**血液中の糖を細胞に取り込み、エネルギーとして使えるようにしている**のです。

インスリンの働きが悪くなると、常に血糖値が高い状態(=高血糖)が続きます。これが糖尿病です。

### 糖尿病にはタイプがある

- ① 1型糖尿病・・・インスリンがほとんど分泌されない
- ② 2型糖尿病・・・インスリンの量が不足、働きが悪い(分泌はされている)

犬は1型が多く、  
猫は2型が多い。

### 症状

- ☑ 多飲多尿 ⇒水分が過剰な糖と共に、尿に出て行ってしまうため
- ☑ 倦怠感 ⇒筋肉がエネルギー源の糖を取り込めないため、エネルギー不足に陥る(筋肉に糖は不可欠)
- ☑ 体重減少 ⇒取り込めない糖の代わりに、筋肉や脂肪をエネルギーとして消費するため
- ☑ 食欲増加(初期)⇒細胞に糖が取り込まれない結果、脳が飢餓状態と誤認して空腹を感じるため



これらの症状は、糖尿病の初期に見られる典型的なものです。

### 原因

原因として最も多い

早食い・過食、ストレス  
インスリンの働きが鈍りやすくなる

基礎疾患  
肥満、すい臓の炎症や破壊など

年齢  
基礎代謝の低下により、エネルギー過多になりやすい

先天性、遺伝体質  
生まれつきインスリンが作れない体質

投薬  
薬の中には、インスリンの働きを弱めるものもある

原因はいろいろ  
なんだにゃ～



### 治療

糖尿病治療の目的は、体が糖を使えるようにすることです。そのために病状により変わりますが、食事療法や、毎日人工のインスリンを注射したりします。飲み薬を用いる場合もあります。



### 予防

ストレスや肥満はインスリンの働きを鈍らせます。糖尿病予防には適切な運動と食事が大切です。また、定期的な健康診断で早期発見・早期治療をすることで重篤化を回避し、血糖値がうまくコントロールできれば、健康な子と同じように元気に生活できます。

スタッフより

糖尿病は、治療を始めてからも定期的な通院や検査が必要な病気です。適正体重の維持や、定期的な健康診断など日々の積み重ねで大切な家族の健康を守ってあげてくださいね。

